

ブナオ山におけるツキノワグマの遅い観察記録

南 出 洋	石川県白山自然保護センター
谷 野 一 道	石川県白山自然保護センター
甲 部 芳 彦	石川県白山自然保護センター
安 田 雅 美	石川県白山自然保護センター
平 松 新 一	石川県白山自然保護センター

Records of winter observations of Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) at the slope of Mt. Bunaoyama, Ishikawa Prefecture

Hiroshi MINAMIDE, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Kazumichi TANINO, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Yoshihiko KOBE, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Masami ANDA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Shin-ichi HIRAMATSU, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

ブナオ山は白山一里野温泉スキー場の東側、笈ヶ岳の南西側の尾根の先に位置する標高1,365mの山岳である。その尾添川対岸にブナオ山観察舎があり、そこでは双眼鏡などを用いてブナオ山南斜面にいる野生動物を観察することができる。この施設は11月下旬から5月上旬まで閉館しており、冬期の積雪のある期間を中心にニホンカモシカ (*Capricornis crispus*)、ニホンザル (*Macaca fuscata*) などの大型哺乳類やイヌワシ (*Aquila chrysaetos*)、クマタカ (*Spizaetus nipalensis*) などの猛禽類などが観察できるほか、近年はニホンイノシシ (*Sus scrofa*) やニホンジカ (*Cervus nippon*) の観察例も増えている (山下・江崎, 2015)。

ツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) は石川県では加賀地域を中心に分布している (野崎, 1999) が、近年は能登地域にも分布を拡大し、その数も増加している (石川県, 2015)。ブナオ山ではツキノワグマも観察できるが、特に地域一帯が鳥獣保護区になった2000年以降は目撃数が増加している (山下・江崎, 2015)。ブナオ山でツキノワグマが観察できるのは春が中心で、4月には冬眠から目覚めたクマが雪解けた斜面で草の芽吹きを食べてい

る姿が例年観察できる (山下・江崎, 2015)。また、冬眠前にもツキノワグマが観察されることがあり、2016年12月から2017年1月にかけても、ブナオ山斜面でツキノワグマが活動している様子が観察できた。これまでブナオ山でツキノワグマが1月に観察された例はなく、全国的に見ても冬期の活動記録についてはほとんど知られていない。そこでここではブナオ山における2016年12月から2017年1月のツキノワグマの観察記録について報告する。

観察方法

ツキノワグマの活動は、ブナオ山観察舎の職員が双眼鏡あるいは望遠鏡を使ってブナオ山の南斜面を確認した。ツキノワグマを確認した場合、確認日時、確認時のツキノワグマの様子等を記録した。また、ツキノワグマが観察された日 (2016年12月18日) から観察されなくなった日 (2017年1月11日) までの最高・最低気温、天候、積雪状況についても記録した。ただし、12月29日から1月3日まではブナオ山観察舎が閉館のため観察は行っていない。

結果と考察

ツキノワグマを観察した場所はブナオ山南斜面の西側、通称ズバイカベと呼ばれる場所の左側である

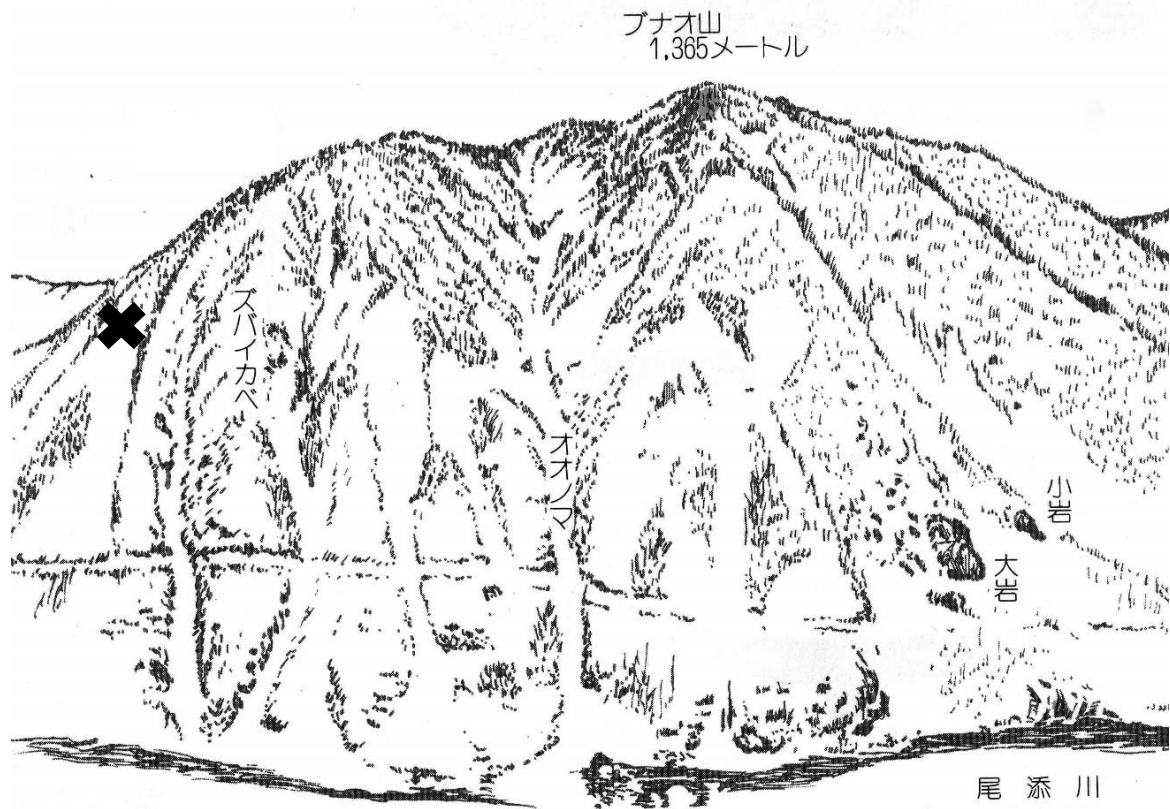


図1 ツキノワグマが観察された場所（×印）

（図1）。その場所には大きな岩がいくつかあり、ツキノワグマはその岩の間にできた隙間周辺で活動していた。ツキノワグマは木のうろや岩の割れ目、岩穴、木の根元などを冬眠場所として利用していることが知られており（石川県白山自然保護センター，1988），ここではその岩の隙間にある穴を冬眠場所として利用していると推測できる。ツキノワグマは必ずこの穴から出入りし，期間中はこの場所から移動することはなかったため，観察したのは全て同じ個体だと考えられる。

観察されたツキノワグマは常に2頭で行動していた（写真1）。2頭は一つの穴に一緒に入っており，大きさがかなり違っていた。ツキノワグマは冬眠中に出産し，生まれた子グマは翌年も母グマとともに生活し，その年の冬も母グマと同じ穴で冬眠する（上馬，2012；大井，2009）ことから，ここで見られた2頭は母グマと前年に生まれた子グマと考えられる。

表1 ブナオ山でツキノワグマが観察された年月日

年月日		観察時刻
2016年	12月18日	13：15
	12月19日	12：45
	12月21日	10：30 14：45
	12月25日	14：42
	12月27日	10：54
2017年	1月7日	12：30
	1月8日	11：25 15：20
	1月10日	12：55



写真1 2016年12月18日に観察されたツキノワグマ

表2 ブナオ山観察舎におけるツキノワグマの冬眠前の最終確認日と確認日数

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
最終確認日	11月28日	11月28日	11月23日	11月22日	12月19日	11月30日	12月7日	1月10日
確認日数	2	5	1	1	5	9	11	8

ツキノワグマが観察できたのは2016年12月18日から2017年1月10日までの間の8日間だった(表1)。12月18日以前にはこの場所ではツキノワグマが観察されていなかったことから、2頭はその数日前に移動してきたと考えられる。ツキノワグマは通常11月下旬から12月に冬眠に入る(大井, 2009)。白山麓でGPS首輪を装着した個体の2007年の行動を追った記録からも11月上旬から4月下旬まで冬眠していたことが明らかになっている(山田・上馬, 2008)。一方、上馬・野崎(2004)は、捕獲したツキノワグマの移動放獣後の行動を追跡し、積雪がない年は12月下旬まで冬眠に入らず活動していたことを報告している。今回の観察時期には冬眠穴周辺には数十センチメートル程度の積雪が数度あったものの、すぐに解け、雪がない時期が多かった。このことから、ここで観察されたツキノワグマは単純に冬眠に入る時期が遅かったと考えられる。

ツキノワグマが観察されたのは10時30分から15時20分までの時間帯だった。ツキノワグマは黎明薄暮を中心とした昼に活動する傾向がある(山田・上馬, 2008; 大井, 2009)が、人里では人間活動を避けて夜間に行動するなど、環境によってその行動時間を変えることがある(山田・上馬, 2008)。今回の活動は日中で、500m以上離れたブナオ山観察舎の人間の気配を感じることなく活動していたと考えられる。

1月8日までの7回の観察では、ツキノワグマ親子は枯草を集めて巣穴に運んでいた。その際には親子とも集めた枯草を前脚で抱え、後ずさりしながら

後脚から穴の中に入っていく様子が観察できた。白山麓で見つかったツキノワグマの冬眠穴にはササやスギの葉、小枝などが敷かれており(上馬, 2012)、今回の行動は冬眠穴の寝床とするために草を集めて穴の中に運んでいたと考えられる。一方、1月10日には、穴から出てきた2頭は草を集めることもなく、しばらくすると頭から巣穴に戻っていただけだった。さらに、この日以降は降雪があり1月14日には多量の雪で冬眠穴もふさがってしまい、それ以降このツキノワグマが観察されることはなかった。

12月18日から1月11日までの観察期間中、ツキノワグマが観察された日の最高気温の平均は8.4℃、観察されなかった日は5.4℃で、両者の間には有意差があった(ANOVA, $p=0.038$)。一方、最低気温の平均は観察された日が1.8℃、観察されなかった日が1.1℃で、両者間には有意差がなかった(ANOVA, $p=0.572$)。ツキノワグマが活動していたのは日中なので、日中に観測されることが多い最高気温の方がツキノワグマにとって活動するための条件になると考えられる。

追記

このツキノワグマ親子は、2月28日および3月1日に冬眠穴から出てきたところが目撃された。2月28日は14時15分に2頭が穴から体の一部だけを出し、しばらくして穴の中に戻った。その後16時5分にも2頭が穴から出て周辺の草を集め、16時15分には穴の中に入っていった。この日は晴天で観察舎外の最低気温は-4℃、最高気温は7℃、16時に出現

表3 観察期間(2016年12月18日から2017年1月11日)の最高気温と最低気温

最高気温	日数	平均±標準偏差	最小値	最大値
観察できた日	8	8.4 ± 2.33	6	12
観察できなかった日	11	5.7 ± 2.49	1	9
最低気温	日数	平均±標準偏差	最小値	最大値
観察できた日	8	1.8 ± 2.44	-3	5
観察できなかった日	11	1.1 ± 2.33	-2	5

したときの気温は4℃だった。3月1日は12時40分に出て昨日と同様草を集め、13時19分に穴に戻った。この日は晴れ後曇り、最低気温は-2℃、最高気温は11℃、出現時の気温は10℃だった。

引用文献

- 石川県 (2015) ツキノワグマ管理計画. 石川県, 金沢, 21pp.
- 石川県白山自然保護センター (1988) 白山のツキノワグマ. 石川県白山自然保護センター, 石川県, 白山, 21pp.
- 野崎英吉 (1999) ツキノワグマ. 石川県哺乳類研究会 (編), 石川県の哺乳類, 石川県哺乳類研究会, 石川県, 金沢.
- 大井徹 (2009) ツキノワグマ. 東海大学出版会, 神奈川県, 秦野, 246pp
- 上馬康生 (2012) ツキノワグマの生態. 石川県白山自然保護センター, 石川県, 白山, 21pp.
- 上馬康生・野崎英吉 (2004) 石川県におけるツキノワグマの移動放獣試験 (2000年～2004年). 石川県白山自然保護センター, 31, 97-104.
- 山田孝樹・上馬康生 (2008) 白山地域のツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) の日周行動と季節的行動様式の変化. 石川県白山自然保護センター, 35, 35-46.
- 山下和樹・江崎功二郎 (2015) ブナオ山の野生動物 - 35年間の観察記録から -. はくさん, 43 (2), 12-15.